令和元年度　岐阜県教科用図書　第２回　可茂地区採択協議会　議事要旨

１　日　時：令和元年７月１０日（水）９：３０～１６：３０
２　会　場：可児市総合会館　大ホール
３　議　事
（１）事務局からの説明
・公正確保について
・教科用図書の調査研究の概要
（２）可茂地区採択協議会会長　挨拶
・協議会の開会を宣告
・可茂地区において、教科用図書を選定することについて
（３）会の成立
・委員の半数以上の出席があり、会が成立することを確認
（４）議案の審議
規約第３条に基づき、可茂地区採択協議会副会長の進行で議事を行った。

■国語の調査研究報告

・調査項目１「学習指導要領」について
どの教科書も話すこと聞くこと、書くこと、読むこと、言葉に関わる内容がバランスよく配分されており、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が分かりやすいものになっている。
【東京書籍】
「情報の扱い方」について、２年生以上には「書くこと」に関わらせて小単元の学習が効果的に位置付けられている。グラフや表などの様々な情報を根拠に自分の考えを書くことをさせる。
【光村図書】
「書くこと」において説明的な文章を書く言語活動に系統性が見られる。同じ報告文を書くにあたって４、５年生の発達段階に応じて「百科事典の調べ方」「統計資料の読み方」と適度抵抗のある言語様式の位置付けがある。
・調査項目２「岐阜県教育振興基本計画」について
どの教科書も、ふるさと教育の推進に向けて、郷土、地域を題材とした教材・単元の位置付けがある。５年生では、【東京書籍】「和の文化について調べよう」【学校図書】「方言と共通語」【教育出版】「町じまんを推薦しよう」【光村図書】「みんながすごしやすい町へ」と位置付けられている。
どの教科書もＩＣＴを活用したデジタルコンテンツを取り入れている。
【光村図書】では、「紙面」「動画」「音声教材」「外部リンク」と内容が充実している。学習指導要領では、情報活用能力が学習の基本となる資質・能力として位置付けられている。今後、ＩＣＴ機器はあらゆる学習活動の基盤となる。
・調査項目３「印刷・製本等」について
１～４年はすべて上・下の分冊。それぞれの重さは３００ｇ程度。５，６年は【東京書籍】と【光村図書】が１冊で５００ｇ程度、【学校図書】と【教育出版】は分冊で３００ｇ程度。
どの教科書も、発達段階に応じて、文節ごとの分かちがき、文節改行等、低学年児童への配慮が

ある。【教育出版】では、図版等の資料の見やすさが、よりすぐれている。

絞り込んだ２者【光村図書】【東京書籍】について二つの着眼点で説明。

１点目：主体的・対話的で深い学びについて（５年生読むこと「大造じいさんとガン」）
単元の入口「これから『何を学ぶか』」を誘うページの比較では、両者には「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのようにまなぶか」が学び手に分かるようになっている。
【光村図書】では「学びの姿」が見える紙面構成「とらえよう→ふかめよう→まとめよう→ひろげよう」になっており、より見通しがもてるようになっている。
２点目：ふるさと教育について
【光村図書】伝記を読んで、自分の生き方について考える単元である。八百津町の偉人、杉原千畝の生き方につなげる単元が盛り込まれている。

上位２者は拮抗しているが、３項目９観点で比較検討した結果、可茂管内の児童には、管内の国語科が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標、管内の実態から考え、光村図書がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》
・郷土の偉人杉原千畝さんのことが光村図書の説明には出ていたが、東京書籍にはなかったということか？
⇒東京書籍は読書紹介という形で１００冊ほどあげる中での１冊だが、光村図書は単元の中に組み込まれている
・二次元コードは光村図書独自のものか。聞きやすさはどうか。その他、光村図書のコンテンツに特徴は？
⇒二次元コードは４者ともにある。コンテンツの数に違いはあるが、どの教科書会社にも盛り込まれている。ただ、コンテンツの数が光村図書は一番多い。
・読書紹介について大幅な変更はあるか。
⇒取り扱う文学教材については変化なし。ただ、その教材を「朗読」「感想の交流」で扱うかは変化あり。読書教材は大きく変化。「一つの花」において現在使用している教科書では 10 冊示しているが　新しい教科書では４冊に精査されている。

〇小学校「国語」教科用図書採択原案について、可決。

■書写の調査研究報告
・調査項目１「学習指導要領」について
どの教科書も「今日的な課題を題材にした教材」がバランスよく配分されており、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」分かりやすいものになっている。例えば、
【学校図書】「安全教育」１年１８ｐいかのおすし、【教育出版】「国際理解教育」４年１ｐ世界のこんにちは、【日本文教出版】「防災教育」５年３６ｐ
また、【東京書籍】の１年生「もじをかくしせい」では見開きのページで、「文字を正しく整え

て書くこと」が分かりやすく示されている。
【光村図書】【教育出版】では「学習の進め方」が示されている。「何をどのように学んでいくか」子供たち自身が学習内容や学習過程について見通しをもち、理解することが主体的な学びにつながっている。
・調査項目２「岐阜県教育振興基本計画」について
　どの教科書もＩＣＴを活用したデジタルコンテンツを取り入れている。
【東京書籍】では全学年共通（文字を書く姿勢）のコンテンツが、【光村図書】では８２の動画が収録されている。
　多様な学びを支援する教育の充実については「適切に運筆する能力の向上につながる補助的な内容に工夫がある。
【東京書籍】【教育出版】【光村図書】【日本文教出版】は水書きシートを取り入れている。水書用筆で運筆を体感することで、「ぴたっ」と止める動きと、「払い」のすうっと力を抜く動きの違いが鉛筆より分かり、適切に運筆する能力を高めている。
・調査項目３「印刷製本等」について
　教科書のサイズは B5 サイズが基準で、総ページ数は４８ｐ～６０ｐ程度で各者に大きな違いはない。どの教科書も、文字の大きさ、字間、行間に読みやすさがある。
【東京書籍】
　１年「とめ」「はね」「はらい」では、イラストや図版に使う色の数や分量が適度ですっきりした紙面構成になっている。
【光村図書】
　１年「とめ」「はね」「はらい」では、大切なことが一目で分かるすっきりとした紙面構成になっている。

　特にふさわしいと考えられる２者（東京書籍・光村図書）について２つの着眼点で説明。

　１点目：特別な教育的ニーズのある子供に分かりやすく工夫した教科書であるか。
　【光村図書】１年、【東京書籍】１年には「目で見て、指でなぞって、声に出して一人一人にあった多様な学習方法」がある。「ぴたっ」「ぴょん」「すうっ」「ぐうっ」等の擬態語やキャラクターの動き、記号を用いることで多感覚に働きかけている。外国籍児童を含め、誰もが学びやすい工夫がある。
　２点目：多様な学びを支援する教育の充実について。
　【東京書籍】では、右手・左手のどちらの持ち方も掲載がある。１年生では「書きやすい持ち方」、３年生では「左手で書く場合の案内」がある。２年生では教材文字と書き込み欄を上下に配置したり、書き込み欄を左右両方に配置したりして、聞き手に関わらず教材文字が見やすく、特性の有無に関わらず、学びやすい工夫がある。

　上位２者は拮抗していたが、３項目９観点で比較検討した結果、可茂管内の児童には、管内の国語科「書写」が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標、管内の実態から考え、東京書籍がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》

・鉛筆の持ち方　書く姿勢など、光村図書と東京書籍どちらで指導するとより効果が得られると考えたか。
⇒学習指導要領では鉛筆の持ち方の指導は１，２年生で丁寧に行うことになっている。
東京書籍：左手、右手の位置を紙面に実際に手を置いて確かめる。動画による持ち方の説明が１～6 年生まで共通してある
・教科書を横に置いたとき　手本と書く大きさが同じくらいだと書きやすいと思うがどうか。
⇒東京書籍：基本Ｂ５大で、やや近い。拡大の必要はないと考える。光村図書も同様。
・右利き・左利きへの配慮は大変よいことだが、4 者ともか？
⇒多様な学びの支援という着眼点で利き手の配慮について 5 者を比較した。他者でも、もちろん配慮はあるが、絞り込んだ 2 者で比較したとき東京書籍が、より優れている。
・動画コンテンツの数はどのようになっているか。
⇒学年ごとに　東京　４　４　１９　１８　２０　１８　（計８３）　　左から 1 年→6 年生
　　光村　４　３　１４　１３　１３　１１　（計５８）
・動画の数　今使っている教科書との違いについて数や質に違いはあるか。
⇒動画の位置付けは新しい教科書の特徴であり、他者にも位置付けられている。教師だけでなく、子供が家に帰っても見ることができるようになった。東京書籍の動画は解説が聞けること、書き手からの視点での撮影、手元のアップ等、示し方が優れている

〇小学校「書写」教科用図書採択原案について、可決。

■社会科の研究調査報告
・着眼点１－（1）について（３年生の教科書を例にする）
【東京書籍】
キャラクターを目印に、空間時間、相互関係の三つの視点と考え方が一目で分かるように示され、社会的な見方・考え方を働かせるような工夫が十分にされている。
【教育出版】
「社会科的な見方・考え方」を吹き出しで例示し、「社会的な見方・考え方」を使った学習が十分に意識できるよう工夫がされている。
【日本文教出版】
「見方・考え方コーナー」を位置付け、３種類（空間・時間・関係）のマークも一緒に示され、「社会的な見方・考え方」を身に付けるための工夫がされている。

特にふさわしいと考えられる２者（東京書籍・教育出版）を、社会科の本質に関わる着眼点１-（2）（3）について共通する内容等の箇所を比較検討した。
・着眼点１（2）について　（４年生の教科書で比較）
【東京書籍】
全学年の関わりを示すだけではなく、ページごとに教科関連マークがあり、他学年・他教科との関連がとても分かりやすく示され、教科横断的な学びを可能にする構成となっている。
【教育出版】
他教科との関連が大切にされている。４年生以上には「前の学年をふり返ろう」のページが設定され、学年との関連が大切にされている。

・着眼点１（３）について　（６年生の教科書で比較）
【東京書籍】
　政治・国際編では、「話し合い」の場面や社会で働く人から、話を聞く場面を重視し、対話的な学びを進めていくことができるように十分な工夫がされている。また、様々な立場から社会的事象を捉えることにもつながる。
【教育出版】
　「次につなげよう」という窓があり、本時から次ページへのつながりが意識できる構成になっており、主体的な学習につながる工夫がされている。

　比較検討した結果、可茂管内の児童には、管内の社会科が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標、管内の実態から考え、東京書籍の教科書がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》
・地域教材が豊富に、とあるが具体的に教えてもらいたい

⇒東京書籍	４年	「火山災害からくらしを守る」	下呂市・高山市	P98 ～99
	５年	「低い土地のくらし」	海津市	上 P22 ～31
	６年	「わたしたちの生活と食料生産」	中津川市	上 P66
教育出版	３年	「市のうつりかわり」	岐阜市	P156
	４年	「都道府県」	白川郷	P9
	５年	「日本の気候」	白川郷	P22, 23
	６年	「自然災害」	御岳山	P204、207

・東京書籍のみ５，６年生が上下の分冊になっているが、前の学習部分を見ることができないということもあるが、なぜ分冊がよいと考えたか。
⇒分冊には半分にすることができるという良さがある。必要ないときは持ってこなくてよいという選択ができるよさがある。
・ＵＤフォントの採用について

フォント	東京書籍	ＵＤフォント	字体に太細がある
	教育出版	ＵＤフォント	字体に太細がない
	日本文教出版	なし	字体に太細がない

・３，４年生の副教材との関わりについての調査研究はあるか。
⇒３年生については地元の教材を扱う場合において副教材でカバーしていくことになる。
　特別な調査研究はしていない。

○小学校「社会」教科用図書採択原案について、可決。

■社会科（地図）の研究調査報告
　可茂地区の子供たちにとってふさわしい地図という観点から、一者を選定するために、2 者（東京書籍・帝国書院）を着眼点１－（１）（２）（３）について、具体的な事例を比較した。
・着眼点１－（１）について
【東京書籍】

巻頭で、地図記号や索引等、地図の基本的な見方・使い方について、とても分かりやすく示されている。地図学習のページが８ページある。また、地図帳の使い方が丁寧に示されている。
【帝国書院】
巻頭で、地図の約束（記号や方位、縮尺）や使い方について、具体的に示されており、とても分かりやすい。地図の使い方に関するページも 12 ページある。また、地図帳の使い方が大変丁寧に示されている。
・着眼点１－（２）について
【東京書籍】
子供たちが初めて見る地方ごとの地図には情報量が多くある。
【帝国書院】
学年の発達の段階を考え、「広く見渡す地図」は、情報量が少なく、とても分かりやすくつくられており、子供たちに親しみやすくなっている。
・着眼点１－（３）について
【東京書籍】
各所で地図や資料の活用の手がかりをキャラクターが吹き出しで投げかけ、主体的な学習につながる工夫がなされている。
【帝国書院】
キャラクターが、地図や資料の活用の手がかりを具体的に投げかけているので、主体的・対話的な学習を行う上で大変有効な構成になっている。

このように比較検討した結果、可茂管内の子供には、管内の社会科が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標、管内の実態から考え、帝国書院の地図がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》
・領土の扱いについて２者での違いはあるか
⇒表現については、学習指導要領に準じ、「日本固有の領土」と両者記述されている。

〇小学校「地図」教科用図書採択原案について、可決。

■算数の研究調査報告
・６者の特長
【東京書籍】
１時間の授業ごとに、めあてやまとめが分かりやすく位置付けられている。特に、まとめには数学的な見方・考え方が明記されている。
【大日本図書】
十進位取り記数法の理解を深める工夫が数多く盛り込まれている。また、授業で見出した数学的な見方・考え方を一枚のシートにまとめ、その後の学習に活用できる工夫がされている。
【日本文教出版】
見通しをもって自力追究をすすめることができるように、既習内容や大切な考え方に関する吹き出しが数多く位置付けられている。

【啓林館】
　多様な考え方が示されているページには、考え方のポイントを示す吹き出しがあり、共通点や相違点を考える際の手がかりとなるように工夫されている。
【教育出版】
　「はてな」「なるほど」「だったら」のマークを位置付け、課題やまとめのポイントを分かりやすく示す工夫がされている。
【学校図書】
　数直線やテープ図とともに４マス関係表を示し、数量関係を捉えたり、計算の仕方を考えたりする際に活用することができる工夫がされている。
・２者選定
　着眼点を「1⑴資質・能力の三つの柱をバランスよく育成」にしぼり、６者をさらに詳しく比較検討した。
　３つの柱のうち「知識・技能」と「学びに向かう力・人間性」については、大きな差異は見られなかった。しかし、「思考力・判断力・表現力」には差異が見られた。２年生の単元「三角形と四角形」を例に報告する。
　学習指導要領には、この単元の内容が知識・技能と思考力・判断力・表現力の２面から示されている。特に、思考力・判断力・表現力については、「構成する要素に着目し、構成の仕方を考える」とある。数学的な見方・考え方に関するところである。
【東京書籍】
　構成する要素である「辺」「頂点」について、その数に着目することで図形を見つけることができることをまとめに記載している。こうした数学的な見方・考え方に関する内容が、すべてのまとめに必ず記されている。
【大日本図書】
　「はっけん考え方」とタイトルをつけ、まとめに数学的な見方・考え方を記している。さらにすべての学年に「ひらめきアイテム集」がある。切り取ることができ、学んだ数学的な見方・考え方をこのシートに書き込むことで、問題解決の際に活用することできるように工夫されている。
【教育出版】
　単元の中にコラム形式で１か所だけ数学的な見方・考え方に関する記述がある。
【学校図書】
　考えをつくる手がかりとして小さく記されている。
　各者とも巻頭や巻末に数学的な見方・考え方についてまとめるなど工夫がみられるが、６学年のあらゆる単元において、数学的な見方・考え方をまとめに具体的に記しているのは、東京書籍と大日本図書の２者である。三つの柱をバランスよく育成するためには、数学的な見方・考え方を具体化し、まとめに確実に位置付けることが大切であると考え、東京書籍と大日本図書が他の４者よりふさわしいと判断した。
・１者選定
　１者を選定するために、東京書籍と大日本図書について精査。
・着眼点 1⑴三つの柱をバランスよく育成について（３年生の単元「３けたのたし算とひき算」）
【東京書籍】

単元の第１時。一の位から順に位ごとに計算することや繰り上がりの仕組みについて考える際に活用できる図が用意されている。しかし、これ以上の詳しい図はなく、取扱いが指導者に委ねられている。

【大日本図書】

図を使って、位ごとに計算することや繰り上がりについて考える構成になっている。筆算形式にとどまることなく、図を用いて十進位取りの仕組みを根拠に筆算のしかたを考える学習を大切にしたいと考えている。

３けたのひき算になると、東京書籍には図の表記もなくなる。一方、大日本図書には、たし算と同様に図を用いて筆算の仕方を考える学習となっている。図、式、ことばのつながりを大切にすることで、数学的な見方・考え方が高まることはもちろんのこと、知識・技能も確かなものとなる。

６年生の分数のわり算の学習のページ。

【東京書籍】

わる数を整数にするために４倍する考え方とわる数を１にするために　逆数をかける考え方を取り上げている。

【大日本図書】

数直線図を用いて問題場面を大切にしながら計算の仕方を考える学習　が大切にされている。こうした数直線図を用いて、計算の仕方を考えたり説明したりする学習が三つの力をバランスよく育成することにつながると考えた。

・着眼点１(2)単元構成について　（５年生「小数のかけ算」）

【東京書籍】

1/10 の位までの小数をかける計算の仕方を学び、次の時間に 1/100 の位までの小数と 1/10 の位までの小数のかけ算の仕方と筆算の仕方を学ぶ単元構成になっている。

【大日本図書】

スモールステップで単元が構成されている。子どもにとって大変分かりやすい構成である。さらに、大切にしたい１より小さい小数をかける計算についても１時間をかけて丁寧に扱っている。残念ながら東京書籍には、この学習がない。

・着眼点２(3)多様な学びを支援について　（単元末問題について）

【大日本図書】

たしかめ問題に取り組む前に、「しっかりチェック」と書かれた既習内容を確認する箇所がすべての単元に位置付けられている。ポイントを確認してから問題に取り組むことができ、よく工夫がされている。

以上、比較検討した結果、大日本図書の教科用図書が最もふさわしいという結論に至った。

《報告を受けて協議》

・プログラミン関係で大日本図書が優れている点はあるか。

⇒デジタルコンテンツは啓林館が優れているが、どの者も一定の基準はクリアしている。

・文章問題を読み取り、必要な情報を抜き出し、考えることに課題があるが、その点はどうか。

⇒立式はできるが、「どうして？」となると頭を悩ます。大日本図書は数直線や線分図などを大切にし、「その式になるわけを答えましょう」という問いがあり、大事にしてあることが分かる。

○小学校「算数」教科用図書採択原案について、可決。

■理科の研究調査報告

・各発行者の特徴について

（６年の巻頭に示された教科書の構成や学習の進め方を解説するページと４年の空気の体積と温度との関係を調べる学習に関するページ）

【東京書籍】

学習単位ごとに「問題をつかむ」「調べる」「まとめる」という流れになっているが、じっくりと考える場面では、対話の具体例を示しながら対話的な学びが豊かに展開するよう工夫されている。観察、実験の準備物や手順等についても分かりやすく示されている。考察の場面では、どのような見方・考え方を働かせればよいかをヒントとして示し、深い学びを支援する配慮がなされている。従来より大きい A4 版で大変見やすい紙面構成となっているが、児童机を占有する面積が大きくなることや旧型ランドセルに収まらないことがあることについては配慮が必要である。

【大日本図書】

学習単位ごとに「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」という構成。予想や考察の場面では、キャラクターのせりふによって、見方・考え方の視点を示し、対話的な学びが実現するよう配慮されている。観察、実験の手順についても大型の写真で視覚的に分かりやすい説明がしてある。まとめは「わかったこと」として、ていねいな表記がなされ、基礎・基本を着実に押さえる工夫がされている。

【学校図書】

学習単位ごとに「見つけよう」「調べよう」「まとめよう」という構成になっている。課題見つけ、予想、考察の場面では、キャラクターのせりふによって児童同士が対話を通じて深く学ぶ場を意図的に設定してある。まとめは、「わかったこと」として明示しているが、意味改行をしていないため分かりやすさという面ではやや配慮に欠けている。写真やイラストを多く配し親しみやすい構成となっているが、文字の大きさや配色については課題が残る。

【教育出版】

学習単位ごとに「問題を見つける」「自分の考えをつくる」「自分の考えを確かめる」「わかったことを表現する」という４段構成となっている。予想や考察の場面では、話し合いのイメージをもちやすいように、キャラクターのせりふによって理科の見方・考え方を示す工夫がされている。観察、実験の手順についてもイラストや写真で分かりやすく示され、安全上の配慮もよくなされている。また、「問題」と「結論」を赤枠で囲って分かりやすく示す工夫もなされている。

【啓林館】

学習単位ごとに「見つける」「調べる」「ふり返る」という構成になっている。随所に２次元コードを配して、関連するデジタルコンテンツがすぐに活用できるよう、工夫されている。問題づくり、予想、考察の場面では、キャラクターのせりふによって協働的な活動を設定し、対話的で深い学びが実現するよう配慮されている。観察や実験の手順や視点を分かりやすく示していることや、意味改行によって、誰にも分かりやすい表記する工夫がなされている。

可茂地区には、県内有数の大規模校もあるが、全体的には中規模・小規模の学校が多く、大半

の学級担任が理科指導を受け持つことになる。従って、安全面に配慮しながら観察、実験の準備や手順が分かりやすく示されていることや、基礎・基本が着実に定着する配慮が十分になされていることが大切である。また、外国人児童が多く在籍する実態から、読みやすさや多文化共生等への配慮も必要となる。どの教科書にもそれぞれの工夫や配慮が見られたが、このような視点から、東京書籍と啓林館の２者をさらに比較検討することとした。

・調査研究結果の概要の説明

１・２年の生活科の学習を受けて、初めて理科の学習に取り組む３年生にとって、「理科の学び方」を習得する意味で導入段階での指導は大切なポイントになる。観察カードの書き方やノートのまとめ方については、両者とも大変ていねいな内容となっている。話し合いの仕方についても、話型を含めてポイントを示しているが、啓林館は、児童の発達の段階によって、話し手・聞き手の立場ごとに解説している点に特徴がある。写真等の学習資料も、それぞれ分かりやすく示す工夫があるが、啓林館は成長過程を時系列で示す配慮がなされている。

・６年の「だ液のはたらき」を調べる学習を比較

両者とも実験の手順や考察の視点をていねいに示している。実験方法については、東京書籍は試験管や体温に近い40℃の湯を使う従来の方法であるのに対して、啓林館ではプラスチック容器を手のひらであたためる簡便な方法を示しているところに特徴がある。顕微鏡の使い方など、器具の基礎操作についても、両者とも写真やイラストを用いて基本技能が確実に定着するよう工夫している。両者とも巻末資料に掲載されているが、啓林館は初めて使用する器具については、本文にも位置付けている点に特徴がある。また両者ともに関連するデジタルコンテンツを準備している。

東京書籍では顕微鏡を操作する子どもを対面から映しているのに対して、啓林館では顕微鏡を操作する側の手元から映している。また、接眼レンズからのぞいた画像を同時に示すなどの配慮も見られる。

・地域の自然の取り扱いについて

【東京書籍】

５年「流れる水のはたらき」の単元で長良川上流から下流までの写真を大きく取り上げている。また、６年「変わる続ける大地」では、火山灰におおわれた御嶽山頂上付近の様子を示している。

【啓林館】

５年「雲と天気の変化」の単元で白川郷を取り上げ、雪の多い地域でのくらしを紹介している。また、６年「大地のつくりと変化」では、東京書籍と同様に御嶽山の噴火を紹介している。

したがって、ふるさと教育の推進という視点では、東京書籍により特徴があるといえる。

・デジタルコンテンツやプログラミング教育について

デジタルコンテンツについては、両者とも豊富なコンテンツを準備している。タブレット端末等ですぐにアクセスできるという点では、啓林館の教科書がより使いやすい環境設定になっている。プログラミング活動は、両者とも主に６年に位置付けている。東京書籍は電気の有効利用という視点で、センサーによって発光ダイオードをつけたり消したりする活動を位置付けている。ウェブ上にも関連するプログラミングを体験できるよう準備がされている。

【啓林館】

センサーライトを題材として巻末のシートを用いて必要な時だけ点灯するよう、条件と動作を

考えさせる活動を仕組んでいる。同時に、ウェブ上で自分が考えたプログラムをシミュレーションできるよう工夫されている。児童の思考の系統性・連続性に配慮した構成という意味で、啓林館により特徴があるといえる。

東京書籍、啓林館ともに理科が求める「問題解決の力」の育成のために工夫や配慮が数多く見られる。しかし細部にわたって比較検討した結果、可茂管内の児童には、理科が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標や内容、管内の児童・学校の実態等から考え、啓林館がより適していると考える。

《報告を受けて協議》

・啓林館のプログラミング教育についてもう少し詳しく教えてもらいたい。

⇒ウェブ上で、人が近づくと発光ダイオードがつく、消えるという命令を並べ、それが正しくできたかを確かめることができる。命令が正しくなければ、正しく動作しないことが分かる。これは自宅からでもアクセスできるので、自分で何度もやり直すこともできる。

⇒どちらもコンテンツの量は十分準備されている。

啓林館は教科書のいろいろなページに配置してあり、見たいページに即座に飛ぶようにしてある。東京書籍はメニュー画面にリンクしており、そこから探したい項目を選ぶようになっており、目的のコンテンツにたどり着くまでの手間が多い。

・色覚異常の子供にとってもより鮮明に見えるか

⇒両者とも配慮されている。学校図書はフォントが小さく、薄い茶色で読みにくいという個所が多数ある

・啓林館にした決め手は何か。

⇒観察実験方法の開発的取組がみられること。「空気の体積と温度の関係」や「だ液の働き」では従来の方法ではなく、より簡便で適格な結果を得られる方法を提示している。

・先生が実験に取り組むとき、新しい方法は負担にならないか。また、中学校の使用教科書と違うが大丈夫か。

⇒方法については、開発的な方法だが負担になるということはない。むしろ、複数の方法を示しており、選択できるよさがある。

中学校教科書は次年度の採択でどうなるか分からないが、内容については変わらないので大きな問題はない。

〇小学校「理科」教科用図書採択原案について、可決。

■生活科の研究調査報告

・各発行者の特徴やよさについて

【東京書籍】

児童の思考の流れに沿った学習の過程が丁寧に扱われている。黒板の板書や児童の学習ノートを掲載し、授業の場面が具体的に想起できるようになっている。

【大日本図書】

学習の導入や活動後の児童同士の交流場面で、電子黒板を活用し視覚を使って分かりやすくする配慮がされている。単元初めには、子どもの活動場面の写真を示し、意欲を高める工夫をして

いる。
【学校図書】
「生活科学び方図鑑」を巻末に位置付け、話し方、聞き方、インタビューの方法などを丁寧に示している。また、ふるさと教育の視点から地域性を活かすことに配慮されており、特色あるマンホールやナンバープレートなどを写真で紹介している。
【教育出版】
中学年以降の教科への発展を視野に入れてある。また、児童自身の気付きや振り返りを重視し、自信や意欲を引き出す工夫をしてある。
【光村図書】
ホップ、ステップ、ジャンプの３つの段階を示し、学習過程を明確にしている。活動後の振り返る活動を重視し単元ごとに振り返るとともに年間を通して自分の成長に気付くようにしている。
【啓林館】
単元の流れをわくわく、いきいき、ぐんぐんという３つの段階を示し、各時間の内容を明確にしている。活動で見つけたことを表現し伝える場を取り上げ、学習を深めている。
【日本文教】
それぞれのページに学習のめあてを位置付け、その時間にすべきことを明確にしている。学習の様子を多くの写真で示し、学習の見通しをもたせる工夫がなされている。
・調査項目 2－(1)　ふるさと教育について
生活科という教科の特質から、身近な地域や人との関わりを大切にしている。そのため、どの発行者においても、地域を舞台にした活動を仕組み、児童と関わる人々やもの・ことに目を向けさせる流れとなっている。
・2－(3)について
どの発行者も、学習指導要領の趣旨を踏まえ、子供たちの学びを支える内容を、学習の流れの工夫や学び方のヒントを掲載して分かりやすくつくられている。その中で、東京書籍、啓林館、日本文教の３者に、より配慮が見られた。この 3 者は、実際の授業を進める場面を想定し、教室での教師の投げかけや板書を示している。児童に学習の進め方を意識させるとともに、指導者にも導入場面の進め方などのイメージができる。また、巻末に児童に身に付けさせたい「学び方」を取り上げていることも共通している。「話す・聞く」「まとめる」「話し合う」等学習の中で指導するポイントが示されている。学習に対して困り感のある児童への指導にも配慮されている。また、教員経験の少ない、若い先生方が多い可茂地区の現状から考えると、このような配慮があることは使いやすい教科書であるといえる。また、3 者ともに、イラストや写真を使って、車いすを利用している子どもや高齢者を示したり、外国人の児童が登場したりしている。これもこの地区の実態に即したものであると考える。

７者から東京書籍、啓林館、日本文教の３者を選び、その上で、より具体的な内容を基に比較検討を進めた。
・調査項目１－（１）学習指導要領への対応
3 つの単元、上巻「もうすぐ 2 年生」で自分の成長への気づき、下巻「おもちゃづくり、遊びの工夫」で児童の思考、工夫の姿、下巻「まちたんけん」で仲間と関わる姿を比較した。
【東京書籍】

新しい 1 年生を招待する活動を通して自分の成長に気付きやすい構成になっている。また、おもちゃ作りの過程で児童がどのように思考しながら工夫していったかが分かるようにイラストを載せている。児童同士の対話や思いをふきだしで表すことで、児童にも学びやすい教科書になっている。

【啓林館】

できるようになったことを、付箋を用いて整理したり、グループ交流の意見をまとめたりする手立てを紹介し学びの手助けとしている。おもちゃづくりの単元でも、願いをもっておもちゃをパワーアップさせていく過程を示すイラストを掲載している。

【日文】

あそび名人の単元のはじめに、身近な材料・素材を使って十分に遊んで様々な動きに気付くことを大切にしている。児童の自然な気付きから活動を深めている点に特徴がある。

3 者ともに、町探検を年間に複数回実施する計画になっており、後半の探検をグループのメンバーと一緒に活動するよう意図的な単元構成になっている。特に、東京書籍では、グループの話し合いの場面を取り上げ、仲間同士で対話しながら学びを深めていく過程がくわしく示されている。

・調査項目１−（２）スタートカリキュラムについて

3 者ともに重視し、13 ページ以上掲載しています。児童の安心・安全を重視し、啓林館と日文では通学の際の注意を呼びかける内容をここに掲載している。どの発行者も学校生活をスタートさせる保護者の理解・協力を得るため、保護者に向けた説明を丁寧に載せている。特に、東京書籍は、それぞれの活動の意味をイラストの下に説明するなど、より丁寧な配慮がみられた。

・調査項目１−（３）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

グループ交流、話し合い、伝え合う活動の工夫を視点として調査した。「町探検」で見つけたことをまとめ発表する過程で、3 者とも話し合いの視点を「誰に、何を、どうやって」と明確にしている。グループ学習での話し合いがより具体的に深められるように工夫されている。東京書籍と啓林館は、「町探検」の単元と独立させる形で、調べたこと、分かったことを「伝える」単元を設定している。発表会や表現活動の場を設定し、計画・準備・実施・振り返るという過程を経験する中で、仲間との関わりができたりより分かりやすくする工夫を考えたりする学びの深まりがみられる。東京書籍や日文では、伝え方のイメージがつかめるように、新聞やポスター、パンフレットの作品例を分かりやすく掲載している。

以上、比較・検討した結果、児童にとっての学びやすさ、教師にとっての指導のしやすさ、保護者への安心感・信頼感等について、特に配慮されている東京書籍が、より可茂管内の児童に適していると判断した。

《報告を受けて協議》

・保護者への説明とはどんな内容か。

⇒教科書のイラストだけではその学習のねらいが分からないところに補足して書いている。例えば、「してよいことと悪いことが分かり、考えながら行動することをここで指摘している」というように。

・東京書籍だけ縦に大きいことをどう考えるか。

⇒他者は AB 版。東書だけ A 版で確かに縦に大きい。重さも１００ｇの差がある。ただ、取り外しできるポケット図鑑がついており、これだけ持って活動でき、教科書ごと持っていく必要がない。また、生活科の教科書の使い方として家庭に持ち帰る必要性を考えると、置いていってもよいという扱いにすることもできる。紙面が大きいので写真も大きく、イラストに噴出しもあり、分かりやすいというよさがある。どちらを優先するかでこちらを選んだ。

〇小学校「生活」教科用図書採択原案について、可決。

■音楽の研究調査報告

・各者の特長

【教育出版】

主体的な活動の手だて

基礎的な内容の定着をめざした構成

幅広い教材の選択や活動の設定

がなされている。

【教育芸術社】

発達段階と系統性を配慮した題材構成

楽しみながら基礎的な能力を身に付ける手立て

人と人、人と自然との関わりを図った教材、我が国や郷土を愛する心を育成する教材

を大切にする指導の意図が明確に感じられる。

・着眼点１－（１）について

【教育出版】

３年生では、歌ったり演奏したりする活動を通して、音符や休符、記号や用語などを理解する学習が設定されている。６年生では、思いや意図をもって表現するための多岐に渡るヒントコーナー「学びナビ」が設けられている。さらに、ピアニスト辻井伸行さんと音楽との結びつきを記した「ひびきに心をのせて」のコーナーがある。

【教育芸術社】

３年生では、リコーダーのタンギングの奏法について、ホースから出る水の流れから息の流れをイメージさせ、実感を伴いながら基礎的な奏法を身に付けさせるようにしている。６年生では、「ふるさと」の学習の際「ふるさと」について家族や地域の人にインタビューしてみましょうというコーナー、「卒業に思いを込めて」だれに伝えますか？どのような気持ちを伝えますか？と、音楽経験を生活に生かし、周りの人との関わりの中で、生活を潤いのあるものにするヒントが掲載されている。

・着眼点１－（２）について　（４年生の教科書を例）

【教育出版】

テーマを＜曲に合った歌い方＞とし、「ゆかいに歩けば」「とんび」を取り上げている。一方は、響きを大切に、もう一方は、旋律の特長を生かして歌うということをねらっている。音楽を形作る要素を柱とし、歌唱の活動を通し、「曲に合った歌い方の工夫」をすることをねらいとした教材が配列されている。学ぶことが多岐にわたるため、一つ一つの確実な定着に、やや無理があると考える。

【教育芸術社】

テーマを＜旋律の特長を感じ取ろう＞とし、器楽・陽気な船長、歌唱・ゆかいに歩けば、鑑賞・白鳥が取り上げられている。音楽を形作っている要素の「旋律」を柱とし、よさを感じ、考え、判断できるよう、表現及び鑑賞の領域から曲が取り上げられている。系統性を十分に考慮した教材の配列がなされている。

・着眼点１－（３）について

【教育出版】　６年生歌唱「ぼくらの日々」

教科書の左下に「学び合う音楽」コーナーが設けられている。一つの曲の出会いから、パート練習、表現の練り合いまでの一連の学び方を示唆している。

【教育芸術社】　５年生歌唱「まちぼうけ」

作詞者・作曲者、演奏者がそれぞれどのように関わり合っているか、話し合うコーナーがある。音楽を学級担任が指導する小学校では、このようなコーナーが教員のよい指導見本になる。

・着眼点２－（１）ついて

【教育出版】

太鼓、こと、篠笛等、９種類の和楽器に親しむことができる。岐阜県の教材としては、「郡上八幡の盆踊り」が取り上げられている。

【教育芸術社】

長銅太鼓、締太鼓、篠笛、琴、尺八、三味線など、１２種類の多彩な和楽器が紹介されている。岐阜県の教材としては「高山祭の屋台行事」「郡上節」が取り上げられている。さらに５・６年生と２年連続で取り上げられているところにも魅力がある。

・着眼点２－（２）について

AI の時代到来ということで、音楽にも、ICT が用いられるようになった。２者ともに教科書にバーコードが掲載され、読み取れば、そこから楽器の奏法や、目指す表現などの音源がすぐに取り入れられるようになっている。

【教育出版】

バーコードが、目次欄に一括して設けられている。

【教育芸術社】

ページごとに掲載されており、より手軽に活用できると考える。

・着眼点３－（１）について

２者とも、児童の興味関心を惹きつける挿絵や写真がカラー刷りで豊富に掲載されている。吹き出しも効果的に用いられており、魅力的な教科書となっている。

【教育出版】

１・２年生の教科書が若干小さく、３年生以上の教科書がそれに比べてやや大きく作られている。見開きで自然の様子を撮影したものもある。しかし扱いやすさについては、やや難点があると判断する。

【教育芸術社】

全学年同じ大きさ・重さになっている。他者に比べ、ページ数が多いにも関わらず、軽く仕上がっている。どの学年の児童にも扱い易く作られていると判断する。

可茂地区の音楽科の授業では、児童の発達段階を考慮し、音楽活動の基礎能力を培うための「主題による系統的な題材構成」を大切にしている。そして、音楽の専門ではない学級担任が授業を行うという実態からも、児童の発達段階を十分考慮し、きめ細かなステップを踏んだ指導に

よる基礎基本の定着を図ることのできるものが可茂地区の児童に、より適していると考える。

《報告を受けて協議》

・意見書　１－（１）　歌唱の割合は教育出版が少なく、教育芸術社は多いとあるが、どのようにとらえればよいか。

⇒可茂地区は合唱発表を始め、授業以外の朝、帰りの会でもよく歌う。歌唱教材の活用がよくできる実態があり、合っていると考える。

〇小学校「音楽」教科用図書採択原案について、可決。

■図画工作の研究調査報告

・調査項目１について

２者ともに、全題材を通して三つの柱に基づいた「学習のめあて」が明記されている。２者ともキャラクターを登場させ、キャラクターが投げかける言葉をヒントにして児童が主体的に学ぶという工夫がされている。

・着眼点１－（２）について

２者ともに国語や理科、道徳などの他教科と関連をもって学習できる題材の工夫が見られる。また、小学校入学前の幼児期の学び、小学校卒業後の中学校の学びと、学びの接続を意識した題材も２者とも取り入れている。

違いは取り扱っている題材の数にある。

【開隆堂】

図画工作の授業時数に応じて、高学年になるに従い、徐々に数を減らし、総数は１２０。開隆堂は「絵に表す」の題材が４１％と充実している。

【日本文教出版】

コンスタントな題材数を６年間保ち、総数は１３４。「立体に表す」や「鑑賞」など、どの題材についても多くの作品に触れることができる。

・着眼点１－（３）について

２者ともに共同で行う題材を多く提示している。さらに、児童が仲間とコミュニケーションを図りながら、試行錯誤を繰り返し、楽しんで活動する写真を多く掲載している。

日本文教出版は、活動後の作者のコメント、鑑賞の題材での対話の様子が文章で詳しく書かれており、言語活動を促している。

・着眼点２－（１）について

岐阜県にゆかりのある作家や作品の扱いとともに、東濃地方で盛んに行われている粘土作品、飛騨地方で盛んに行われている版画作品の扱いに注目した。

【開隆堂】

岐阜県出身の画家、熊谷守一氏の作品を１・２年上で紹介している。さらに、どの学年でも「粘土」の題材を扱っている。「粘土」製作における技法や材料・用具の扱いについては、５・６年下の「学びの資料」と名付けたページで、分かりやすく説明している。また、版画の題材についても、６年間を通して扱っている。版画についての「学びの資料」は、各学年の発達段階に応じたものになっている。

【日本文教出版】

５・６年上で前述の熊谷守一氏の作品、５・６年下で美濃和紙あかりアート展、さらに３・４年上で紹介された作品の中に高山市と美濃加茂市の土が使用されている。

「粘土」と「版画」の題材については、開隆堂同様、どの学年でも扱っている。開隆堂と比べ、特筆すべきは「粘土」の題材数が約２倍であることと「粘土」製作における材料や用具の指導の丁寧さである。「使ってみよう材料と道具」と名付けたページで、材料や用具の扱い方について、５冊に渡って段階的に提示している。

・着眼点（２）について

【開隆堂】

多くのページに二次元コードがついている。これを読み込むと、題材製作の手順やポイント、用具の使い方などの動画を見られる仕組みになっている。図画工作の指導が不得手な教諭や経験の少ない教諭も手軽に教材研究ができる。また、大型ビジョンで提示すれば、児童への視覚的な支援となる。その他にも、デジタルカメラを使った活動やプロジェクションマッピングなど、ＩＣＴを活用した題材がとても豊富である。

【日本文教出版】

デジタル教科書や指導書に附属のＤＶＤで、教材研究をしたり、児童用の資料として提示したりすることができる。また、タブレットコンピュータや、デジタルカメラを使った表現や鑑賞の活動の様子が多く掲載されている。

・着眼点（３）について

多文化共生を推進している可茂地区の子ども達が使う教科書という視点から、様々なルーツをもつ児童が学びやすい内容であるかということを調査した。

【開隆堂】

「外国の友達の絵」という、外国児童の作品を紹介するコーナーを位置付け、多文化理解を促している。さらに、５・６年上では、東京オリンピック・パラリンピックをテーマにした立体作品やデザインの事例を紹介している。異年齢の人とのかかわりから生まれる造形活動についても紹介している。

【日本文教出版】

「外国の友だちの絵」というコーナーが位置付けられている。さらに、児童が造形活動をする写真においても、様々なルーツをもつ児童の写真が使用されており、多文化共生を目指す地域にとても合っているといえる。５・６年上では「アールブリュット」の作品を取り上げ、多様性を尊重しながら学べるように配慮されている。

・調査項目３について

着眼点（１）については、２者ともに大きな違いはなく、児童の負担にならない大きさや重さになっていた。

着眼点（２）については、２者ともに、学年に応じた文字の大きさを調整している。また、多様な色覚をもつ様々な人に配慮して、色の組み合わせを識別しやすくしたカラーユニバーサルデザインを採用している。写真のレイアウトに各者の特徴が表れている。１年生の同じ題材で２者を比べると　その特徴が良く分かる。

【開隆堂】

一つ一つの写真が大きく、作品や児童の表情もよく見える。写真や絵・図の重なりを極力減らし、発達障がいの児童にも配慮している。

【日本文教出版】
　１枚１枚の写真は小さくなるが、その分多くの活動の様子が紹介されている。多くの技法の紹介は、児童はもちろんだが、経験年数の少ない教員の手助けになる。
・着眼点（３）について
【開隆堂】
　見開き２ページで１題材というページもあれば、１ページで１題材を掲載しているページもある。
【日本文教出版】
　全て見開き２ページで１題材と統一されている。児童が、一つの題材に集中しやすいという良さがある。

　以上、比較検討した結果、可茂管内の児童には、管内の図画工作科が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標、管内の実態から考え、日本文教出版が、より適していると考える。

《報告を受けて協議》
・二次元コードは日本文教のみか。
⇒開隆堂だけ。日本文教にはない。
・低学年と幼児教育とのつながりとして何か特徴的なことはあるか
⇒スタンピングの技法を、手・道具を使い、もっと広い場や共同で造形遊びの一部として発展的に扱うようにしている。幼児期に砂場遊びを経験してきているが、砂という素材に関わりながらの造形遊びが題材として位置付けてある。

○小学校「図画工作」教科用図書採択原案について、可決。

■家庭科の研究調査報告
・調査項目「１（１）」について　（指導内容「材料に適した炒め方」）
　資質・能力の育成をバランスよく図る構成について
【東京書籍】
　全ての題材を３ステップで展開している。ステップ１は「見つめよう」　２は「計画しよう・実践しよう」　３は「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」。各題材の小見出しには、このようにステップの段階が分かりやすく示されている。３ステップを繰り返すことで「どのように学ぶのか」を身に付け、実生活に活用できる力を育成するよう工夫されている。
　また、その題材で特に大切にしたい見方・考え方を「家庭科の窓」として題材の右側に設定している。ここに示された視点から生活を見つめ直し、課題を発見することができるよう工夫されている。さらに、ステップごとに「めあて」と「ふりかえろう」が示されており、児童が確実にステップを踏んで学習が進められるよう工夫されている。
【開隆堂】
　各題材は「学習のめあて」で始まり、問題解決的な学習を通し、最後には、「ふりかえろう」「生活にいかそう」で家庭実践につなげるように工夫され、学習の過程において「できたかな」チェックが設定されている。

家庭科は、週に１時間または２時間の教科である。児童の学びが連続し、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら問題解決的に学習を進めることができるかどうかという点で、東京書籍がより配慮されていると考えた。

・基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る構成について
【東京書籍】
野菜を切る時の大きさの目安が実寸写真で分かりやすく提示されている。このように厚さまで示されていることは、基礎的・基本的な技能の定着にとても有効である。また、巻末には、「いつも確かめよう」が位置付けられた構成となっており、基本的な技能や作業の進め方、右利き・左利きの手の使い方の実物大の写真が掲載されている。児童が必要な時にいつでも確かめることができるよう工夫されている。
【開隆堂】
野菜の切り方はこのようにイラストで示されている。巻末には、「利き手はどちら？」の資料が示されている。
さらに、両者の違いは、「朝食」の取り上げ方である。
【東京書籍】
題材名にも「朝食」が入り、「朝食の大切さ」を前面に出した構成となっている。このように１ページを使って、写真やグラフのデータ等で朝食の大切さを科学的に示している。
平成２９年度全国学力・学習状況調査結果として「朝食の状況」が示されている。同年度、岐阜県の結果は、全国とほぼ同様の結果である。小学生から中学生になるにつれて、朝食の欠食率が高くなっていくことが分かる。可茂地区の子どもたちの状況も岐阜県の状況と同様であると思われる。
【開隆堂】
朝食と体温の変化を示した図のみ。

小学校の段階で朝食の大切さを教科でしっかりと学んだ上で、朝食にふさわしい「炒める調理」の知識と技能を確実に身に付けることはとても重要であると考える。これらの点から、東京書籍がより配慮されていると考えた。

・調査項目２（１）について　（指導内容「家族との協力」）
可茂地区の特産品の一つに「美濃白川茶」がある。お茶の産地の小学校では、お茶について調べ学習をしたり、茶摘み体験をしたりして、ふるさと学習に積極的に取り組んでいる。
【東京書籍】
可茂地区の特産品であるお茶を「日本の伝統的な飲み物」として位置付け、家庭科の最初の題材に「お茶をいれてみよう」という活動が位置付けられた構成となっている。特徴的なことは、このように「日本の伝統」としてお茶に関する資料を１ページにわたって示している点である。
【開隆堂】
「伝統」として「わかした湯を使ったお茶の入れ方」「お茶の種類」「お茶にかかわる人」が取り上げられている。

地元の特産品であるお茶が家庭科の教科書に「伝統的な日本の飲み物」として位置付けられ、茶摘み体験がふるさとの伝統を受け継いでいくものとして紹介され、協力しておいしいお茶をいれることから家庭科の学習が始まることは、可茂地区の児童にとって、ふるさとの良さを再確認し、ふるさとへの愛着と誇りを育むことにつながると考えられる。

以上、比較検討した結果、可茂地区の児童には、管内の家庭科が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標、可茂地区の状況や実態から考え、東京書籍がより適していると考える。

《報告を受けて協議》

・開隆堂　プログラミング紹介　東京書籍にはあるか

⇒両者とも　コンテンツはあり、差異はない。

開隆堂はプログラミングについての紹介がある。プログラミング教育の観点からは意味がある。この点については開隆堂が優れていると判断する。

・５，６年２学年をまとめた時、相互間の系統性、関連性においてもよさはあるか

⇒系統性については、例えば、東京書籍、開隆堂における「ジャガイモ」の取り上げ方では、東京書籍では５，６年の２回ともジャガイモの皮をむくが、それに対し開隆堂では５年では切って、ゆであがってから皮をむき、包丁を使う技能は６年のみで扱っている。５，６年にわたって包丁を使う東京書籍のほうが確実な技能の習得ができると考える。

・家庭の一員としての役割を担う点では

⇒5 年生で家族に協力してお茶を出すという扱いをしている（東京書籍）

〇小学校「家庭」教科用図書採択原案について、可決。

■体育（保健）研究調査報告

・各者の特徴

【東京書籍】

１単位時間がステップ１～ステップ４の４ページで４部構成になっている。ページごとの基本構成が明確で主体的・対話的な深い学びになる授業を実現できるように配慮されている。児童の気付きを大切にした「ステップ１」では、主体的に学習に取り組めるように問題提起する写真を掲載し、課題に導く工夫は、他者にはない特徴である。

【学研教育みらい】

各単元の最初のページに、各章で独自に、どんなことについて考えるのか問いかけ、課題に気付いたり、見通しをもてたりすることができるようになっている。特に対話的な学びに関しては、「友達と」と記されたマークが付けてあり、友達と一緒に学習しやすいように位置付けている。

【大日本図書】

５年生で学習する「けがの防止」では、安全教育の中でもとりわけ、危険を予知して避ける能力の育成を重視し、学習を通して自然に身に付くよう工夫している。例えば、P18、P19 にある絵の中からキャラクターを見つけながら、危険な場面を模擬体験し、児童が自分のこととして捉えるような工夫がある。

【光文書院】
　単位時間の導入では、２人の子どものやり取りを４コマ漫画で表すことで、自分の生活との関わりに気付き、興味・関心をもたせる特徴がある。導入では、児童が学習内容を「自分事」として捉えられる問いを設定し、次ページの学習課題につなぐ配慮がなされている。
【文教社】
　大きなイラストと課題文が示され、効率よく学びに向かわせる配慮がなされている。今の生活を振り返るチェック欄があり、自分のことを客観的に見つめながら、判断力と思考力の育成につなげる特徴が見られる。

　可茂地区の子供たちにとってふさわしい教科書という観点から、１者を選定するために、特にふさわしいと考えた２者「東京書籍」と「学研」について比較検討した結果を報告する。
・調査項目１－（１）　導入の工夫について（４年生の「体の発育・発達」）
【東京書籍】
　赤ちゃんの手形と靴の実物大を示し、自分の手ひらを当てたり上靴を並べて足のサイズを比較させたりして、体の変化に気付き、児童の興味関心を引き出す配慮が十分になされている。この、肌感覚でとらえた自分の体の変化からスムーズに課題へと直結する効率の良さは、粘り強く主体的な学びを実現している。
【学研教育みらい】
　一般的な給食の様子とボールを手にする子供の写真を示しながら、教師の問いや仲間の意見を聞きながら気づきを促し課題に向かう。これは、一斉学習で課題を理解して、段階を踏まえながら学習を進める配慮がなされていると言えるが、学びに向かう意欲を喚起させる点では、やや弱さを感じる。

　次に、両者とも、発達における個人差の理解について丁寧にとらえさせるページが用意されている。この内容についても「東京書籍」のほうが、「学研」と比べると視覚的にも数値的にも理解しやすい構成になっていると調査委員一同の意見が一致した。
６年生の「薬物乱用と健康」を例にとる。
【東京書籍】
　一面に大きく「だめ、ぜったい」と訴える高校生の薬物乱用防止キャンペーンの写真が載せてある。高校生が自分たちの問題として活動する様子から、薬物が子どもの世界に広がらないための決意と切実感が伝わってくる。
【学研教育みらい】
　薬物の心身に及ぼす影響をイラストから読み取らせ、害についての知識を理解させる配慮がなされている。ただ、薬物の恐ろしさや一度でも手にしたらとりかえしのつかないことになるという思いまでにはいたらず、子どもの心へは届かないのではとの見解で一致した。
・調査項目２－（２）　ICT を活用した学習活動の充実
　２者とも動画やシミュレーションなど、児童の理解度を高めることをねらいとしたデジタルコンテンツが用意され、タブレットやパソコンなど、端末を問わず使用できるような配慮がなされている。しかし、２者には大きく２つの違いがある。一つは、コンテンツが用意されている箇所への表示方法の違いである。
【学研教育みらい】

教科書の４ｐにマークの説明があるものの、実際それが本文のどこに関わってくるのか不明瞭で、マークを探す作業に時間がかかる。
【東京書籍】
巻頭の１ｐにコンテンツタイトルと本文のどこに関わるのか丁寧にページ数が表示されている。
・コンテンツへの入り方の違いについて（５年「けがの防止」）
両者とも大型車両が曲がる際に生じる内輪差について理解させる動画が準備されている。
【学研教育みらい】
この動画にたどり着くまでに６画面の操作が必要である。途中、リンク先から、専門サイトに入り、より専門的な動画等にたどり着く配慮がなされているが、教師が目的の動画を探るまでの手間がかかる。
【東京書籍】
３画面操作で、目的の動画にたどり着くことができる。これは、指導する教師にとって、大変効率的で無駄のない操作方法で子供が家でも使いやすい配慮が十分になされている。

まとめると、東京書籍の方が、授業の導入の仕方に工夫がみられること、課題解決の糸口が分かりやすく、主体的な学びを実現している。また、ICT 活用で、無駄のない操作方法で児童の学びを手助けする動画やシミュレーションなどのデジタルコンテンツを充実しており、子供たちにとって効果的な学びへとつながるという点で優位性がうかがえた。
以上、比較検討した結果、可茂管内の児童には、指導者が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標、そして子供の実態から考え、東京書籍がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》
・「多様性・個人の尊重」の具体例は。コンテンツの数は。
⇒「個人差」という言葉を設けて示されている。これについてはどの教科書でも同じ。
デジタルコンテンツの数は　　東書　29　学研　23
・性に関わることの低年齢化に関わる課題があるが、小学校内での指導について各者の取り上げ方はどうなっているか。
⇒東京書籍では、３，４年生で「思春期に現れる変化」として取り扱っているが、これはどの教科書でも同じ。個人差に触れながら示してある。中学では機能的なことに触れるが、小学校は個人差を強調している。
・薬物乱用　アレルギー　ノロ　エイズ等への扱いはどうなっているか
⇒「感染症の予防」として高学年で示されている。
東京書籍では、では 6 年生で「インフルエンザ」「ノロ」等を写真、図を用い、分かりやすく説明している。アレルギーについては　各者差はなし。

○小学校「保健体育」教科用図書採択原案について、可決。

■英語の研究調査報告
・各者の特徴、よさについて
【東京書籍】

４技能５領域について、学年の発達段階に応じた配列になっており、児童が親しみながら無理なく英語を習得できるよう、工夫されている。また、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、対話活動が豊富に仕組まれているだけでなく、Small Talk など活動に親しむ工夫が施されている。

【啓林館】

国語や社会、家庭科など、他教科と関連させた内容を扱い、児童が幅広い知識を用いて言語活動を行ったり、発展的に思考をめぐらせたりできるように、工夫されている。また、ICT を用いた活動が仕組まれており、児童が音声に触れる機会が多く設けられている。

【開隆堂】

一単元の各活動が単元終末の活動につながって必然性のある活動が設定されている。「書くこと」の学習は、教科書後半に単元ごとに約２ページずつ設定され、確実に習得できるようになっている。６年生の巻末では、中学校への接続となる学習が８ページ設けられている。

【光村図書】

単元の導入ページで終末までの目標が示され、児童が主体的に学習できるようになっている。二次元コードで家庭でも視聴できる動画などのデジタルコンテンツが豊富である。

【三省堂】

「聞くこと」「話すこと」の活動が中心となってレッスンがすすめられており、input と output を繰り返していくことで自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞き取ったりするコミュニケーション技能が高まる構成となっている。

【教育出版】

各単元の最後に Sounds and Letters として音声と文字との結びつきに触れたり、Review として単元で学んだことを読んだり書いたりすることができるようになっており、「読むこと」や「書くこと」にも親しめるような工夫がされている。

【学校図書】

「聞くこと」を中心にバランスよく配列されており、身近なことを題材として多く取り上げ、各単元の出口では、学んだ表現を活用する言語活動が位置付けられている。二次元コードで音声データに触れることができ、個人でも繰り返し聞いたり、練習したりできるようになっている。

以上のように、どの教科書にも特徴となるよい点や工夫が見られた。９つの着眼点の中でも小学校外国語科の英語学習に求められる「コミュニケーションを図る基礎となる資質や能力」の育成のために大切にしたいことは、指導内容の系統性や発展性、特に文字の学習の導入にあたる配慮や工夫、多様な学びを支える言語活動の充実、また児童の意欲を喚起できる題材の良さの４点に、指導する教師にとっての扱いやすさを加えた５点であると考える。それらの着眼点に重点を置き、７者を比較したところ、東京書籍と開隆堂の２者が適していると判断し、２者についてこれらの５つの着眼点から精査した。

・着眼点１　４技能５領域の配列のバランスや特徴について

２者には大きな違いがある。２者とも「聞くこと」「話すこと」を指導事項の重点に置いている点は共通している。しかし、東京書籍は文字の導入となる５年生では、「読むこと」「書くこと」の扱いを少なくしていることが分かる。そして、６年生でその扱いを徐々に増やし、目標を達成できるようになっている。一方、開隆堂は４技能を５年、６年ともにバランスよく配列している。少しずつ「読むこと」「書くこと」にも慣れ親しみ、力を育成できるようにしている。

各単元の構成を見てみると、２者ともに「聞くこと」で音声や表現に慣れた上で表現を活用する学習活動へと進むように仕組んでいる。

・着眼点２

２者ともに日本の伝統的な行事や活動を題材とする単元が位置付けられている。具体的には、日本のことを紹介する活動を位置付けた「Welcome to Japan」というタイトルの単元が２者ともにある。歴史的建造物や名所といったものから祭りや和食といった日本の文化まで、幅広く情報が提示されている。

違いは、開隆堂が６年生でこの題材を扱っていることに対して、東京書籍は５年生でこの内容を扱っていることだ。東京書籍は、５年生で主に日本を見つめ直したり、発信したりする題材を多く配置している。単元末「Over The Horizon 」のページでは、多くの情報を提示するだけでなく、外国人から見た日本の魅力についても毎単元で扱っている。さらに、６年生では世界の様々な題材を多く扱い、提示される情報も豊富である。この点では、児童がふるさと日本に愛着や誇りをもつとともに世界に目を向けていくことへとつながる特徴がある。

またＩＣＴの活用に関する点では、２者ともに二次元コードで簡単にアクセスできるデジタルコンテンツを多く配置している。これは担任がＴ１として授業を行う上で、教材として大変活用できるものであり、特に小規模で学年単学級の学校も多い可茂地区では、有効であると考える。開隆堂は音声データが中心だが、動画等のコンテンツも制作中とのことで、今後充実していくと思われる。東京書籍は、音声、動画ともに大変充実しており、操作性も大変使いやすくなっている。またこれらのコンテンツは、児童が家庭においても簡単に利用できることから、個別学習にも活用できる良さがある。

・着眼点の３

教科書の重さは、東京書籍が最も軽く 279g、開隆堂は 362g となっている。また、２者に共通していることは、ともに付録資料が充実しているという点である。中でも（東京書籍）には「Picture Dictionary」が別冊で付属することで、教科書の軽量化を図るとともに、言語活動で活用できる材料を多く提示している。別冊となっていることで、２年間活用できる利便性もある。ただし、別冊は重さが 116g ある。

【開隆堂】

６年生の学習を終えた後に中学校の英語学習への接続をスムーズにするための教材が巻末にあり、この部分は東京書籍よりも充実していた。

以上、比較検討した結果、学習指導要領に示されている目標やこれまでの外国語活動から教科英語への接続、可茂地区の外国語活動で大切にしてきた主体的にコミュニケーション活動できる素地作りの視点から総合的に判断して、可茂管内の児童には東京書籍がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》

・開隆堂は中学への接続に優れているとあったが、東京書籍はその点どうか。

⇒東京書籍の場合、6 年生の最後の単元、Unit８に単元として位置付けられており、中学への接続の学習はある。それに対して開隆堂は 8 ページにわたり、小学校で学んだ表現を復習、整理し、文法事項まで取り扱っており、この部分については開隆堂のほうがより丁寧といえる。

⇒「We　Can」との接続はどうか。
・今の「We　Can」でも「聞く」ことから始め、それを元に「話す」という活動の流れがあり、この教科書でも「We　Can」を使う場合と同じように授業が進められていく構成であるととらえた。
・東京書籍　46ページにある「CLIL」とはどういうものか。他の会社にはないのか
⇒「包括的な活動」という意味で、様々なこと（教科や世の中のこと）を取り入れながら言語を習得することで、東京書籍は特に大切にし、活動を取り入れている。
・「読むこと・書くこと」は５，６年を通してまんべんなくやったほうがいいのか、東京書籍のように５，６年と重点を決め、段階を経て、活動を仕組んだほうがいいのか。
⇒基本的にはまんべんなくやったほうがよい。小学校は文字と音声をつなぐこと、単語を音声化できることが基本になる。その部分において、東京書籍は「0」というわけではなく、文字・音声の結びつき、単語については扱っている。文章として成り立っていることを読むという、6 年生で扱っているものが 5 年にはないというだけで、読むことを全くしないということではない。5 年生は単語を見て、音声化できるところまで扱いながら、文としてまとまったものを読むのは6年生で主に学習していくという構成になっている。
・東京書籍はデジタルコンテンツが「極めて充実している」とあるが　その内容は？
⇒開隆堂：動画が作成中とあり、現段階では確かめられていない。現在は歌等音声のみ。
東京書籍：出口としてどんな会話ができればよいのかすべてに動画が配置されており、安心して提示できる。
・聞く、読むという能動的な活動にウエイトを置いた教科書を選んだということでよいか。
⇒文字を扱わない３，４年生からの接続を考え、5 年生においてはそちらにウエイトを置いている。会話をし、そこに文字が入り、それを読んで発音するという活動が入り、少しずつ文字に慣れながら、6年生ではステップアップするという流れになる。

〇小学校「外国語　英語」教科用図書採択原案について、可決。

■特別の教科　道徳の研究調査報告

全8者を研究調査した結果絞り込んだ2者「日本文教出版」「光文書院」について、比較検討した。
・項目１－（１）－①「今日的な課題」における「情報モラル」の扱いについて
両者ともに、教材とコラムをセットにした形で扱っており、今日の児童が抱える問題に合致したものになっている。ただし、高学年において、「日文」の教材が３つ、コラムが１つに対し、「光文」は、教材が１つ、コラムが２つとなっている。今後、ますます複雑化していくであろう情報モラルについては、小学校高学年においてより重視していくことが求められる。その点で、高学年の教材数が多い「日文」の方がより良いと考えた。
「生命尊重」については、両者適切な教材数となっていた。
「いじめ問題」の扱いでは、両者とも大切に扱っているが、６年生に限ってみると、いじめ問題に関連する教材が、「日文」が８教材であるのに対し、「光文」は４教材となっている。中学校入学を控えた高学年にとって、いじめ問題にかかわって考える機会は、多い方が望ましいと考える。この点から、「日文」の方が、より良いと考えた。
・調査項目１－（１）－②「読み物教材とコラムの扱い」について

「日文」がやや多くのコラムを扱っているが、必要に応じてコラムを利用することから、両者、適切な配分だと考える。読み物教材に加え、適切な分量のコラムを配置することで、知識を広げたり、主題への興味関心を高めたりすることができるようにしている。

・調査項目１－（１）－③「他の教科との関連」について

両者とも、関連が深い内容について適切に示されている。資質能力の三つの柱を全教育活動を通して身に付けることができるよう配慮されている。

・調査項目１－（２）「各学年相互間の関連及び系統性、発展性」について

両者、適切な教材が、バランスよく配置されている。両者とも「C集団」についての教材が多くなっており、人とのかかわりを大切にしている。

・項目１－（２）－②「発問の位置付けや配慮」について

今回の調査研究では、新学習指導要領に示されている、「主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりの推進」という観点から、学習の進め方や発問の在り方について精査した。

〇学習の進め方では、両者とも、とびらのページで「学び方」を具体的に提示し、学習の見通しをもつことができるようにしている。具体的には、「日文」は、道徳的課題について考えを深めた後、自分を見つめることを大切にしている。「光文」は、道徳的課題について考え、まとめた後、いろいろな場面で生かすことを大切にしている。

「特別の教科　道徳」の目標は、「道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的にとらえ、自己の生き方についての考えを深めることを通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことである。「自己を見つめること」「自己の生き方についての考えを深めること」が大切にされていることを考えると、自分を見つめる学習活動を大切にしている「日文」の方が適切であると判断した。

〇発問の扱いについて

【日文】

教材の最後に「考えてみよう」という項目を位置付け、発問例を示している。また、主要な教材では、「学習の手引き」を位置付け、学びのイメージをより明確にできるようにしている。

【光文】

「光文」は、教材ごとに、キャラクターを用いて、複数の発問を示している。

〇具体的な発問について

【日文】

全体として「主人公は、どのような思いから～したのだろう。」「～したとき、主人公はどんな思いだったのだろう。」と児童が自我関与しながら考えを深めていくことができる発問例が多くなっている。

【光文】

「主人公が～したのは、どうしてだろう。」「なぜ主人公は、～したのだろう。」と、その理由や理屈を考えていく発問例が多くなっている。

「特別の教科　道徳」が、自己理解を大切にしていることを考えると、児童が自我関与しながら考えを深めていくことのできる発問が大切である。この点において、「日文」の発問例の扱いの方がより良いと判断した。

・項目２　岐阜県教育振興基本計画に基づく調査内容について

両者ともに、「杉原千畝」を教材として取り上げている。岐阜県に関わる教材数では、「日

文」が３教材と１コラム、「光文」が５教材となっており、どちらもふるさと岐阜への愛着がもてるよう配慮されている。
・項目２－（３）「学びの振り返りの扱い」について
【日文】
「道徳ノート」が付いており、教材ごとにページが用意されている。上段に、主要発問についての考えを書く欄、下段に、授業のまとめを自由に記述できる欄があり、このノートを活用すれば、授業途中と授業終わりでの児童の感じ方や考え方を記録として残すことができる。
【光文】
「道徳ノート」はなく、教科書の最後に「学びのあしあと」として授業の記録を書きとめる欄がある。簡単に書き込めたり、「心の矢印」を記録したりするなどの工夫がある。

道徳ノートの有無については、研究員の中から、「ノートに主要発問があることで、発問が制限され、多様な展開が妨げられるのではないか。」「毎時間、書く活動を取り入れた授業が可能か。」「ノートを使い切れるか。」などの意見あった。それに対し、「経験の少ない若手教員にとって、ノートの活用が、授業づくりの参考になる。」「道徳ノートにある主要発問は、よく吟味されている。その発問を使わないときは、違う発問のプリントを用意できるようになっている。」「学校や教師によっては、毎時間、道徳ノートを印刷しているところがある。そのことを考えると、道徳ノートがあった方が便利であり、業務の時間短縮につながる。」「ノートの記録は、評価する時に役立つ。」などの意見があった。そうした意見をもとに検討した結果、「道徳ノートは、有効に活用できる」と判断した。

以上、「日本文教出版」と「光文書院」の教科書を比較検討した結果、学習指導要領に示されている目標や可茂地区の実態から考え、「日本文教出版」の教科書がより適していると判断した。

《報告を受けて協議》
・日本文教出版は考えてみようという項目があり、心情、判断力を大切にした授業構成になっており、光文書院は根拠、理由を大切にしている。議論する道徳、対話する道徳という方向性からいうと光文のほうが国の方針に合っているのではないか。
⇒価値理解だけではなく他者を理解するという議論の中で、主人公の心情はこういうふうなんだと自分は思うのだが、他の仲間はどう思うのかという議論で自己理解を深めていくということを大切にすると、自我関与しながら自己理解を深めていくという日文の発問例のほうが適していると判断した。
・別冊ノートの取り扱いだが、中心発問がそれありきになってしまう危惧をもっている。担任がその教室の児童の実態に応じて考えていくということを大事にしたいと思ったときに受け入れがたいと思いが自分にはある。先生方もそれを使わないと、親さんから「配られているのに使っていないな」とか「あの先生は使っているのにこの先生は使ってくれない」とか、かえってマイナス要素を心配してしまう。光文のほうにもデジタルデータとして印刷して使うものがある。道徳の授業に大きな影響を及ぼすと思うので十分な検討は必要だと考える。

〇小学校「特別の教科　道徳」教科用図書採択原案について、可決。

■「令和２年度使用中学校教科用図書可茂地区採択原案」を提示し、審議した。
全員一致で原案通り可決した。

（５）連絡

・7 月１１日以降に各市町村（組合）教育委員会は採択協議会の採択原案を議決し、７月３１日までに完了することを確認した。
・情報公開について、情報公開の対象及び情報公開の窓口を確認した。
・本協議会に係る情報について、８月３１日までは非公開であるため、内容等について他言しないよう依頼した。

（６）可茂地区採択協議会会長挨拶

・本協議会出席へのお礼
・協議会の閉会を宣告